

あらうか髪髻に白いものが目立つて殖えた様に見えた、二學期から微生物學、蠶病學が先生の手によつて開講されることになつた。

### 園田勇先生

商學士石井爽講師が家事都合上八月末日退職されたので、其後任講師に囑託せらる、講師は目下丸子農商學校の教職に在つて、本校に於ては商業通論を擔當せらる。

### 古谷榮藏先生

從來生徒監として學生の總取締をして居られたが今回、官制の改正によつて學生主事と云ふ名稱に變更せられた。生徒監等と云ふいかめしい名前より幾分濫かい感じのする名稱である。

### 岡徳治郎、佐藤春太郎兩先生

九月一日附を以て高等官三等に陞叙せらる。

### 岩崎喜三郎先生

十月十日附を以て助教授に任ぜらる。

## 學生だより

### 近 時 邊 々

糸 三 正 木 生

黄色に輝いた校庭のポプラが、遠い烏帽子の紅葉の山を背景にすつきりと青い空にのびてゐたのも此の頃のことだと思つてゐたのに、もうカサリコソリと散り初めて修巳寮の窓下を一面に敷きつめてゐる。

運動會、發火演習、東京横濱視察旅行、御大典と矢つぎ早やにつゞいた私達の行事の爲め、新教務課長の早川先生から——庭のポプラも散り初めたから君達もそろ／＼勉強を初めて居るだらうね——と柔らかな皮肉を受ける迄は、皆

可成り浮腫で居たのだつた。だが、その浮腫も就職、履歴書等の持つて来る何とも云へぬ重々しくそして妙に或る人々を感傷的にするあの落着の無い氣持も大分に含まれたものだ。そしてゐる間にも秋は次第に遠退いて行くのを何うすることも出来ない定められたものゝ淋しさを感じつゝ、十分の休みに教室の窓からお互に眺め合つてゐるのが此の頃の私達の生活とそして氣持です。

製糸部では、此の度は大いに擴張を計畫致しまして、現在の繰糸工場の續きに（運動場の方向の池の端）煮繭場を、又庭球コートの西北側に乾燥場を設置する事になつて、只今工事中です。煮繭場は、七間と五間（三十五坪）で乾燥場は、三間と十二間（三十六坪）の鐵筋コンクリートとなるのです。だが、舊乾燥器の中原式の旋風器と繭架の廻轉をくるみを焼いて食べ乍ら手廻しした事を思ふと、此處にも捨てがたいものがある。

多分は今の私達と同じ様に、二學期初めの乾繭實習に取て高温過乾に落して早歸へりのサボを定めたであらう先輩諸兄も當時を追想すれば、又親しみの湧く事でせう。此の秋の旅行の折に横濱でも諏訪でも皆先輩方の鄭重な御案内と盛んな歓迎をして下さつたのを、旅先の私達は眞に嬉しく思つたのでした。それもこの母校の温かい環境に育つた者達の持つ親しさからだと思ひます。

私達も卒業したならば、良い先輩に――恰も自分等の先輩の如き――ならうと思つてゐます。

来る廿四、五、六の三日間の講演會の際には、多くの先輩諸兄にお逢ひしてお話しを承給することも出来ませんが、遠いお國の皆々様も追々に迫る寒さに呉々も御氣付きなさる様御自愛の程祈りつゝペンを置きます。――一一・二〇――